

(様式3)

## 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成24年12月25日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0895500023		
法人名	社会福祉法人 青洲会		
事業所名	小規模多機能型居宅介護 どんぐり倶楽部	ユニット名	—
所在地	〒300-2302 茨城県つくばみらい市狸穴1072-46		
自己評価作成日	平成24年7月15日	評価結果 市町村受理日	平成24年12月21日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2011_021_kani=true&amp;JigyosyoCd=0895500023-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=021">http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2011_021_kani=true&amp;JigyosyoCd=0895500023-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=021</a>
-----------------	---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成24年9月25日	評価確定日	平成24年12月7日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>どんぐり倶楽部では、認知症になっても重い障害を持っても、住み慣れた地域で馴染の方々と生活を続けたいという高齢者の方の思いを支えていきます。</p> <p>たとえ一人で生活されている方でも、我々がお手伝いすることで家での生活を続けられる、家族がいる方でも、ご家族の都合で一人でいる時間が長い方でも、事業所のサービスを使うことで、安心して出かけられる環境を提供できるよう、通い、訪問を柔軟に対応し、場合によってはお泊りの対応を行いながら、支援させていただいています。</p> <p>通常のデイサービスのように時間に捕われず、利用者様の都合に応じて利用できる場所がいいと考えています。</p> <p>例えば、朝早くから、夕方（夜間まで）、夕ごはんを食べてのお帰りも大丈夫ですし、夕方からお泊りの利用も出来ます。</p> <p>その方のペースに合わせたご利用を提供しています。</p>
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所は幹線道路から一本脇に入った閑静な住宅地にあり、隣接している同一法人が運営するグループホームや通所介護事業所と協力体制を築きながら利用者の支援にあたっている。</p> <p>事業所内にはあえて段差を設け、自宅環境と変わらずリハビリ効果を得られる工夫と利用者の残存能力を活用する事に力を入れた支援で利用者の要介護度が改善している。</p> <p>管理者は利用者が可能な限り在宅での生活が継続できるよう24時間365日利用者の生活を支え、家族等の急な都合にも臨機応変に対応する支援をしたいと考えており、全職員にその思いを伝え家族等と協力しながら利用者の支援にあたっている。</p>
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関に掲示し、職員及び利用者様の出入りにおいて目に入るようにしてある。理念については全職員周知しているのはもちろんのこと、定例会においても利用者様に寄り添う介護についての討議が行われている。	「住み慣れた地域やなじみのご自宅での生活が継続できるよう支援いたします。ひとりひとりの尊厳を大切にし、その人の生き方、人生にそっと寄り添い尊重するケアを目指しています」との地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を掲げ、玄関に掲示している。 管理者と職員は月1回の定例会議で理念を唱和して確認するとともに、実践に結び付けている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設のある狸穴地区の住民の方には自治会館に行事の際には声掛け頂き、夏祭りや餅つき会などに参加させていただいている。施設で行う防災訓練には地域の方にも参加いただき消防のお話を伺ったり消火訓練に参加いただいている。又、隣の保育園とは散歩時や運動会などに見学させていただくなどの交流がある。	自治会には加入していないが、自治会主催の夏祭りや流しそうめん大会、餅つき大会に参加し、利用者が地域の人々と交流ができるよう支援している。 利用者は散歩時に事業所の隣にある保育園に立ち寄り、事業所で飼育している兔の餌やりや保育園児が遊びに来てくれるなど、日常的に交流している。 利用者は事業所脇にある畑でさつまいもを作り、事業所の秋祭りで蒸かして近隣住民に振る舞うなど、地域の一員として交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の介護者教室を定期的に開催し、近隣の方々へも参加のお誘いをしている。また、全職員を対象としての認知症サポーター研修を行い、業務以外でも地域に貢献できるよう職員への研修を行なっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回を基本とし、利用者様のご家族にも出席頂き開催されている。そこで、出された意見は運営の参考にさせていただいたり、利用者様の希望として活動に反映させて頂いている。	運営推進会議は隣接する同一法人のグループホームと合同で、家族等の代表や市職員、民生委員、施設長、センター長、管理者で2ヶ月に1回開催している。 会議では利用者の写真を添付した活動状況報告書を配布して詳細に報告するとともに、委員から出た意見等を話し合い、運営に反映させている。 利用者の介護度が軽くなってきている状況を踏まえ、利用者の残存能力を活用することに力を入れた事業所の支援方法や家族等が自宅で行う利用者の介護方法について活発な意見交換をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の担当者とは、運営基準や、住宅改修、認定更新等、日頃から連絡を取り指導いただきながら業務にあたっている。時には困難ケースにおいても相談することも有る。	管理者は市担当者を頻りに訪問し、事業所の実情やケアサービスの取組みを報告しながら情報交換をしている。 利用者の家族等から住宅改修に関して相談を受けた際に市担当者から助言を得たり、申請書類の書き方を指導してもらうなど、日頃から協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の禁止については、勉強会において全員対象で学習するとともに、日頃の援助において日中の玄関の施錠は行なっていない。急に立ち上がる可能性のある利用者様においても拘束などは行なっていない。	管理者と職員は月1回の定例会議で身体拘束の弊害について話し合い、全職員で共有認識を図りながら身体拘束をしないケアに努めている。 管理者は職員の言葉遣いや行動が身体拘束にあたる場合にはその都度注意を促し、身体拘束をしないケアに努めている。 夜間は防犯のため玄関を施錠しているが、日中は施錠せず利用者が自由に出入りができるよう支援している。	
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法については、勉強会において全員対象で学習するとともに、施設に来所にて入浴の際に全身チェックを行い、痣などを発見した際には記録を行い、虐待が見落とされないように注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については、勉強会において学習の機会を設け周知を図るとともに、利用者様の中に日常生活自立支援事業を利用し生活されている方がいるので、その必要性和内容については理解できている。今後は後見人が必要と思われ、継続して支援を行なって行きたいと思っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用にあたっては、事前に施設の見学や、利用されるご本人の体験利用をしていただき、施設の内容を理解いただくようにしている。契約に際しては、定額制のサービスのため、その方に必要なものを必要に応じて提供させていただく点について理解いただけるように取り組んでいる。	/	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	青洲会全体若しくは事業所独自で、アンケートを実施させて頂き、利用者様及びご家族のご意見を出していただく場を設けている。ご意見に対しては回答を公表すると同時に、改善に取り組んでいる。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の定例会を行っており、利用者様の状況、事業所の問題点、共通認識などについて話す場を設けている。また、施設内のリーダーを集めたリーダー会議を月1回、管理者及びセンター長による会議を6月から行うようにし、現場の問題点について話し合う場が設けられている。	管理者は月1回定例会議を開催して職員の意見や提案を聞く機会を設けているほか、いつでも職員から意見等を聞くよう努めている。 職員から小規模多機能型居宅介護の特徴である「通い」や「訪問」、「泊まり」の3つのサービスの勤務体制について、「同じ職員が同じ担当を担っており、勤務体制に偏りがあって不公平だ」との意見が出たため、職員同士の話し合いから前日の夜勤者が全職員が平等に勤務を担えるよう配置を考えることに改善している。 職員が翌日の役割分を把握し易くなるよう「役割分担ノート」を作成したいとの提案があり、管理者は運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年3月に人事考課を行い、それぞれ能力、業務に臨む姿勢等についての評価を行い給与に反映される様になっている。その他、勤務については年間公休が消化出来るよう勤務の見直しを定期的に行っている。	/	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている	1年を夏季と冬季に分け、職員それぞれの能力に応じた課題を与え、それに向かって課題の解決に取り組むシステムがある。それぞれに対して評価を行い、次の課題に取り組むよう働きかけるとともに、必要に応じて研修に参加させる等対応している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域のケアマネ会への参加や、包括主催の勉強会への参加を行なっている。近隣で行われる研修会や勉強会の案内の掲示、参加する際の勤務調整を行なっている。定期的に行われるいなの里での勉強会にも参加できるようにしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様には職員が1名担当者として配置される。利用にあたってはアセスメントを行うとともに、ご本人の不安や意向などが把握出来るように傾聴に努め、ご本人を理解する努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用にあたっては施設に対する説明をさせて頂くと同時にご家族の思いや意向などを詳しくお聞きし納得の行く説明を心がけている。連絡ノートを活用し、わからないことや連絡ごとなどを気軽に聞いていただける関係作りに努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	小規模の対応がいいのか居宅にてサービスを選択した方がいいのかを検討し、総合したサービスが必要である場合に登録のお話をさせて頂く。併設のデイサービスからの移行が多いため、ケアマネや利用者様ご家族との連携が取りやすい。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様には出来ることの継続を基本とし、お部屋の掃除、洗濯物、食事の支度においてもそれぞれの能力に応じて活動いただいている。部屋の花が枯れれば活け直してくれたり畑の作物に対してアドバイスいただくなど施設での生活を支えてもらっている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	小規模職員は朝の送迎、訪問、夕方の送迎とご家族と接する機会も多く、利用者様の日頃の様子についてご家族と密に連携していくことが可能なため、それぞれの思いを中立の立場で仲介し本人が在宅で生活していけるよう働きかける。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	デイサービスから移行して小規模の利用となったが、馴染の方がデイサービスにいられる方、またはその逆、行きつけのお店に買い物に行きたい等、出来る限り、ご本人の希望に添うような援助を行なっている。	利用者が馴染みのスーパーへの外出を希望した際には職員が付き添っているほか、隣接するグループホームや通所介護事業所の馴染みの利用者が遊びに来たり、事業所の利用者が遊びに行き囲碁やカラオケをするなど、職員は利用者が馴染みの人との関係が途切れないよう支援している。 宿泊している利用者の友人が遊びに来た際には、職員はお茶を出して居心地よく過ごせるよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人がいい人、一人が嫌な人、好きな人、嫌いな人、それぞれの意向を組み合わせながら、座席の配置や、活動の声かけなど、工夫しながら援助にあたっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院の長引きにより、登録を抹消された利用者様のご家族様は困りごとや利用者様の様態などを時々来所にてお話くださった。ご相談に対しては分かる範囲でお答えし、退院の際にはご利用できることもお話させていただいた。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアプランの作成は元より、サービスの利用に当たりご本人の思いや意向の確認は行なっている。自己決定や本人が選択出来るよう声掛けの工夫をするなど、本人のペースを大切に支援している。	利用者一人ひとりに担当職員が決まっており、利用者との日々の会話の中から思いや希望を聴き、意向の把握に努めている。思いを表出できない利用者の中には家族等から話を聴いたり、日々の生活の様子を基に職員同士で話し合っている。把握した利用者の思いは個人記録に記載して全職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅での生活と同じように過ごしていただくために、生活歴やご自宅の様子など状況の把握を行なっている。認知症の方は特に昔のことが記憶に有るため、生活歴を知り、お話を援助に活かすことが必要である。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアマネの毎月の自宅への訪問、職員の送迎時における状況の把握など、ご自宅への訪問の機会や、ご家族の来所の際のお話など、少しの機会を活用し現状の把握に努め、連絡ノートを活用し状況の共有に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	認定の更新時にはサービス担当者会議を行い、ご本人、ご家族、職員、福祉用具担当者、訪問看護職員などを交えて話し合える場を設けている。また、常から各担当者と密に連絡をとり情報の共有に努めている。	利用者の担当職員が利用者の様子を記載した月間報告書を1ヶ月毎に作成し、管理者に提出している。送迎時や利用者の自宅訪問時に利用者や家族等の意見や希望を聴くとともに、管理者と全職員で話し合っ利用者一人ひとりに合わせた達成可能な具体的な内容の介護計画を作成している。月1回モニタリングを実施し、6ヶ月から1年毎に介護計画を見直すとともに、利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、現状に即した介護計画に見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のバイタル、活動の記録を行っている。毎月、月末には1ヶ月の様子をケアマネにあて月刊報告を作成し提出している。定例会にはその内容や気づきを元に討議が行われ、ケアプランの見直しの題材になっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	夫婦ふたり暮らしで、パートナーが時期をずらして入院することがあり。それぞれの能力に応じて援助を展開。在宅生活を継続出来た。その際には病院への訪問や入退院への対応などの援助も行った。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会福祉協議会の傾聴ボランティアの定期的な利用をされている利用者様や乳製品配達による安否確認を利用されている方、配食サービスを利用されているかたなど、社協さんの活動を利用させて頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の対応は基本ご家族の対応とさせて頂いているが、主治医の把握と緊急時の受診や様態の連絡など主治医と連携を取りながら利用者様を支援している。	契約時に利用者や家族等が希望するかかりつけ医を確認している。 受診は家族等の付き添いを基本とし、受診結果の報告を受けている。 家族等の都合で受診ができない場合は、職員が同行して受診結果を家族等に報告している。 協力医療機関の医師による受診を希望する利用者は、月2回協力医療機関の医師が隣接するグループホームに訪問診療に来た際に受診ができるように支援し、受診結果は家族等に報告している。 利用者一人ひとりの受診結果を個人ファイルに記録し、全職員で共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	来所時の利用者様の体調不良時や、痣、裂傷褥瘡の走りなど、看護師に相談し、ご家族に連絡するなど、場合によっては主治医に相談するなどの対応を行なっている。訪問看護師とも連絡ノートや電話FAX等で連絡を取り、施設在宅にて連携したケアが行えるよう連携を取っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	近隣の病院の医療連携室に出向き、挨拶はしてある。入院退院際には病院の相談員さんと連絡を取り、在宅に向けてのアドバイスを頂くなどの場を設けて頂いている。入退院時には情報交換や退院時のサマリーを依頼して治療経過や注意事項などを聞き、利用者様の生活に支障がないようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化に際しての対応についての説明を行なっている。終末の希望によっては関連施設との連携や事業所の協力医院への紹介など、可能な体制を作っている。	契約時に利用者や家族等に重度化や終末期に向けた事業所の方針を説明して同意を得ている。 小規模多機能型居宅介護事業所の特徴から、可能な限り利用者が在宅生活を継続できるように24時間365日支えるためにも、重度化や終末期に向けた対応の知識や技術が全職員に必要とされているが、研修を実施するまでに至っていない。	全職員に重度化や終末期に向けた対応の知識や技術の研修を実施することを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成し、急変や事故発生時に迅速で適切な対応が出来るようにしている。		
35	13	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署の指導の下、日中や夜間を想定した消防訓練を実施している。できるだけ近隣の方々にも参加していただき、緊急時には協力していただける体制を築けるよう連携を図っている。	夜間を想定した避難訓練を含む消防総合訓練を消防署立ち会いのもと、隣接する同一法人のグループホームや通所介護事業所と合同で年2回利用者や近隣住民、職員で実施するとともに実施記録を作成している。 訓練内容や消防署から指摘された点を記録して定例会議で話し合い、応援協力者がどこから事業所内に入って来るのか確認を行う必要があるなどの改善点を記録に残している。 多くの地域住民の参加を得られるよう消防総合訓練終了後に災害時に備えての講話や炊き出しなどの工夫をしている。 災害時に備えてクラムチャウダースープの缶詰や飲料水を備蓄している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の入職時には接遇や高齢者への対応を学ぶ機会を設けている。また個人情報取り扱いについても同意書を用いて説明を行ない、十分な理解をもって対応している。	職員は採用時に接遇やプライバシー確保に向けた研修を受講し、利用者一人ひとりの尊厳を大切にしたい支援をするとともに、馴れ合いの中で利用者の誇りやプライバシーを損ねていないか、定期的に内部研修で再確認をしている。 職員は排泄介助時には利用者に小声で声をかけ、気配りしながらトイレ誘導するなど、利用者的人格を尊重した対応に努めている。 個人情報に関する書類は、事務所の鍵のかかる書庫に保管して情報漏洩に留意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ本人の思いや希望を引き出せるように話しかける際には同じ目線に立ってゆっくりしたペースにて対応するように心がけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は常に相手の立場になり、一人ひとりのペースを大切にしながらの支援を心がけている。希望に応じて、併設事業所の通所サービスとの連携を図り、趣味活動やカラオケなどとその日その時の利用者の希望に応じた支援に取り組んでいる。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容や入浴後の整髪など可能な限りご自身にて身だしなみを整えていただき、一人ひとりの個性を大切に支援している。通所にて理美容を希望の方には利用の支援を行っている。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は昼食は厨房にて出来たものが運ばれる。夕食はメニューから利用者の好みを取り入れた物を一緒に考え、それぞれの入力に応じて調理から参加していただいている。昼食でも、盛り付け、配膳、片付けと分担して行っている。	<p>昼食は事業所の調理師が厨房で作製、利用者はできる範囲で職員と一緒に盛り付けや配膳、下膳、茶碗拭きなどを行っている。</p> <p>夕食は利用者の希望にそった献立とし、職員は利用者が一緒に調理に参加できるように支援をしている。</p> <p>職員は利用者と一緒に同じ食事を摂りながら介助し、楽しい雰囲気ですら食事ができるよう支援している。</p> <p>事業所の自家菜園で収穫したミニトマトや茄子、ゴーヤ、きゅうり、じゃがいも、さつまいもなどを食材に使用しており、利用者の楽しみや励みになっている。</p> <p>誕生会にはバナナとケーキで祝ったり、節分や雛祭りなどの行事の際は、手作りのおやつや特別食を提供し、利用者の楽しみとなっている。</p>	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	昼食は栄養士作成の献立表にて栄養の偏りやカロリーの過不足に気をつけている。朝、夕食についても定期的に栄養士が確認している。食事毎の摂取量を確認し、摂取量が低下している場合にはご家族と連携を取りながら一日を通しての必要な食事量が確保できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きやうがい等の援助にて、自立されている方には、本人に任せて声かけを行っている。その方の能力に応じて、準備、誘導、後片付け等の援助を行い、口腔内の清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の生活リズムや排泄パターンを把握するためにチェック表を使用し、一人ひとりに合わせた声かけや時間での誘導を実施している。	<p>職員は排泄チェック表で利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともにタイミングに合わせてトイレ誘導し、トイレで排泄ができるように支援している。</p> <p>利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するために連絡ノートを活用し、家族等に自宅での排泄回数や体調など気付いた事を記載してもらうよう呼びかけ、利用者が自然に排便ができるよう工夫している。</p>	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防として、栄養士に助言を受けながら日々の食事に繊維質の多いものや乳製品を取り入れている。また、散歩や適度に運動を行い、自然排便を促せるよう働きかけている。また排便表を付け、排便の間隔を確認し便秘の対応に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	予め、ご本人やご家族の希望を確認の上で実施予定日を決めてあるが、その時々々の希望や状況に応じて対応できるように支援している。敷地内にあるデイサービスの大浴場をりょうしての大浴場を利用しての入浴など利用者が楽しめるよう働きかけている。	契約時に隣接する同一法人の通所介護事業所の大浴場での入浴と事業所での個浴ができることを説明し、利用者や家族等から希望を聴き支援しており、随時利用者が希望すればどちらの入浴も可能となっている。 入浴を拒む利用者には職員が時間をおいて声かけをしたり、職員を替えて声かけをし、無理なく入浴ができるよう支援している。 利用者や家族等の都合で来所する時間が遅くなった場合でも、いつでも入浴ができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	共同生活のストレスに配慮して、個室や畳の部屋にてゆっくりと過ごす時間を設けている。夜間なかなか眠れない方など、必要に応じての休息時間を設けている。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診の際には頂いた薬の情報を提出いただいている。服薬の状況についてはきちんと把握し、援助の際には確認を行っている。状態に変化が見られた際には、経過を観察し、看護師より主治医に情報の提供をしたりと連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴ややりたいことを尊重し、日々の暮らしにやりがいを持って過ごせるよう支援している。その人らしい役割や楽しみごとを見つけることが出来るように取り組んでいる。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	小規模フロアより、自由にウッドデッキや中庭に出られるようになっており、日常的に外気浴などを楽しんでいる。普段より近隣への散歩や、皆で取り組んでいる農園に作業に出かけたりと外出援助を実施している。利用者様の希望を踏まえ、ドライブ外出なども行っている。	<p>天気の良い日には利用者と職員で事業所周辺を季節を感じながら散歩をしている。</p> <p>利用者は事業所の中庭で飼育している兎とふれ合ったり、ベンチに腰かけてお茶を飲みながら外気浴を楽しんでいる。</p> <p>利用者と職員は農業経験のある利用者に教わりながら自家菜園で野菜を育てており、草取りなどで戸外に出られるよう支援している。</p> <p>利用者から遠出がしたいとの要望があり、取手市岡堰で開催された「鯉のぼりプロジェクトin岡堰」に鯉のぼりを見に行ったり、柏市布施にある「あけぼの山農業公園」のひまわりを見に行ったりした際には、利用者全員が出かけられるよう2回に分かれて外出支援をしている。</p>	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理できる方に関しては、自分の財布を持参していただいている。認知症の方でも可能な限り、その方の希望や能力に応じて支援し、その際にはご家族などに報告、相談と連携を持ちながら実施している。		
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様のご希望に応じて、お泊り時や来所時にご家族と電話にてお話ができるような支援を行っている。そうすることで、お互いが安心できるように援助させていただいている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気意識し、家事や食事作りなどの生活を通じての活動が利用者様主体で行えるような空間作りとなっている。大きな間窓から見える中庭からの景色や、季節の花を食卓に飾るなど、季節の移ろいがわかるような雰囲気作りに努めている。	<p>玄関や中庭への出入り口、和室の出入り口には段差を設け、自宅での生活環境と変わらずハビリ効果も得られる工夫をあえて取り入れている。</p> <p>居間兼食堂の中央にカウンターキッチンを設け、部屋全体が見渡せる状況となっており、利用者は食事の準備や後片付けをしながら他の利用者との会話をしている。</p> <p>居間から中庭に出られる大きな窓を設置し、自然光や外気を取り入れたり、換気や温度調節をして快適に過ごせるよう配慮しているほか、居心地よく過ごせるよう窓の脇にソファを設置している。</p> <p>居間の脇に障子で仕切られた和室があり、利用者の着替に利用したり足を伸ばして寛げる場所となっている。</p>	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	障子にて仕切られた和室や小人数で過ごせるソファの設置をしている。中庭にもベンチを置き、自由に居場所を選択でき思い思いに過ごせるようになっている。	/		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	宿泊利用前に、ご自宅を訪問し自室を見せていただきそれに近い環境でお過ごしいただけるよう配慮している。お一人でお休みになるのが不安な方には、馴染みの方と一緒に泊りが出来るように広めに設定したお部屋も使用いただけるようになっている。	管理者は宿泊前に利用者の自宅を訪問し、事業所でもできるだけ自宅に近い環境を提供できるよう努めている。 泊まりの部屋にはエアコンやトイレ、ベッド、整理筆筒、カーテンが備え付けられている。 ベッドが苦手な利用者には布団も用意されているほか、利用者が一人部屋では寂しい時に馴染みの人と一緒に宿泊ができるよう広い部屋も用意されている。 職員は利用者と家族等に相談して簡単な身の回りの物品や使い馴染んだ物品を持ち込んでもらうように伝え、居心地よく過ごせるように支援している。	/	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全てをバリアフリーにするのではなく、玄関和室の入り口、中庭に出るウッドデッキに多少の段差有、靴や上履きを脱いだり履き替えたりなどの区別や足を持ち上げるなどの動作が行えるように安全に配慮しながら支援している。	/		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

## 目 標 達 成 計 画

事業所名 小規模多機能型居宅介護どんぐり倶楽部

作成日 平成24年12月19日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	33	全職員に重度化や終末期に向けた対応の知識や技術の研修を実施することを期待する	全職員が緊急時の対応が出来る技術の習得に努める。利用者それぞれの状態を把握し、細かな状態の変化に対応できる知識を身につけ、終末期に向けた対応が出来るように務める。	職員各自が業務マニュアルを学習し、緊急の際や通常と違うことに気づき対応できるようにする。利用者様の現在の状態の把握、様態が悪くなる前の症状などの把握を行う。看護師と連携し、重度化や終末期にさしかかった利用者様の今後について家族と話し合い、方向の確認を行う。ターミナル期へのケアについての勉強会への参加や伝達研修などを行っていく。	1年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。